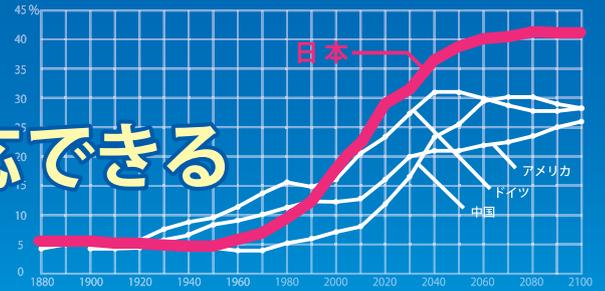


文部科学省 大学間連携共同教育推進事業 平成24年～28年度
北海道医療大学・岩手医科大学・昭和大学・関連歯科医師会

ITを活用した 超高齢社会の到来に対応できる 歯科医師の養成



第1回

公開シンポジウム

ITを活用した
教育センター
歯科医師会

到達度評価委員会 教育プログラム検討委員会

いつでもどこでも学べる
IT教材の活用

北海道医療大学
歯科医師会

岩手医科大学
歯科医師会

昭和大学
歯科医師会

2015年

6月3日(水) 16:00~

開催場所 | 昭和大学 旗の台校舎
1号館 7階講堂

昭和大学学士会後援セミナー

連携大学：北海道医療大学・岩手医科大学・昭和大学

連携歯科医師会：北海道歯科医師会・札幌歯科医師会・岩手県歯科医師会・盛岡市歯科医師会・大森歯科医師会
蒲田歯科医師会・目黒区歯科医師会・品川歯科医師会・荏原歯科医師会

主催：昭和大学 歯学部

後援：昭和大学 学士会

お問い合わせ：ITを活用した教育センター 昭和大学歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座 歯学教育学部門内
本公演ならびにシンポジウムは、平成27年度文部科学省大学改革推進等補助金により実施されます。

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業

ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成

第1回 公開シンポジウム

日時：平成27年 6月3日(水) 16時から

場所：昭和大学 1号館 7階講堂

司会・進行：昭和大学 歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座歯学教育学部門 片岡 竜太

16：00～16：05	開会挨拶 昭和大学 歯学部 歯学部長 宮崎 隆
16：05～16：15	「本取組に期待するもの」 文部科学省高等教育局大学振興課長 塩見みづ枝
16：15～17：00	講演 「卒前教育、卒後教育(歯科臨床研修)に求めるもの～NST連携、介護連携の実践の中から～」 奥州市国保衣川歯科診療所所長 佐々木 勝忠

シンポジウム 座長：昭和大学歯学部 口腔病態診断科学講座 口腔病理学部門 美島 健二

17：00～17：20	1. 取組の概要と成果について 昭和大学歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座 歯学教育学部門 片岡 竜太
17：20～18：05	2. 各大学における取組と成果について 北海道医療大学 歯学部 口腔機能修復・再建学系 咬合再建補綴学分野 越野 寿 岩手医科大学 歯学部 口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野 城 茂治 昭和大学 歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座 口腔衛生学部門 弘中 祥司
18：05～18：25	3. ステークホルダーとしての取組と本取組に期待すること 東京都大田区大森歯科医師会 会長 下山 忠明
18：25～18：50	4. 総合ディスカッション 座長 昭和大学歯学部 口腔病態診断科学講座 口腔病理学部門 美島 健二
18：50～	写真撮影・情報交換会

卒前教育、卒後教育（歯科臨床研修）に求めるもの — NST連携、介護連携の実践の中から —



佐々木 勝忠

奥州市国保衣川歯科診療所 所長

キーワード

超高齢化社会、地域医療、多職種連携

私の勤務する国保衣川歯科診療所は、医科診療所、特養ホーム、グループホーム、保健センターが併設され、施設間の連携がなされている歯科医療機関です。そのような連携の中で、高齢者の歯科治療行為後の患者の経過観察（栄養評価、QOL 評価）で歯科治療の素晴らしさや重要性を感じてきました。さらに、岩手県立胆沢病院（351 床）の NST 回診に参加し、チーム医療の一員として多職種の方々との連携に取り組んで、歯科医師の範疇の広さを感じています。

そのような歯科の素晴らしさや重要性、範疇の広さを現場から歯科学学生や臨床歯科研修医に教えたく、国保衣川歯科診療所では、岩手医大歯学部 5 年生の地域医療体験実習（1 日）と卒後歯科臨床研修（3 日間）を引き受けています。

今回、5 年生の地域医療体験実習の一日の実習で学ぶ症例や体験実習で何を教えようとしているかを紹介しながら、今後の超高齢者社会で歯科医師がどんな知識を得てチーム医療の一員にならなければならないかを考えてみたいと思っています。

5 年生の地域医療体験実習での症例検討では、歯科治療で ADL が著明に改善した症例から栄養評価と歯科の重要性・素晴らしさを学び、末梢性舌下神経麻痺の症例と失語症の症例からは臨床機能解剖の大切さを学び、その後、放射線技師より脳神経の CT 画像の見方を学ぶことにしています。昼食時には、症例検討した特養ホーム入所者の食事風景を見学します。午後には失語症の患者さんの訪問口腔ケアを見学し、岩手県立胆沢病院の NST 回診に参加するという強行スケジュールです。

学生がどのように感じているか感想を紹介し、地域医療体験実習の評価にしたいと思います。最後に追加的に、超高齢者社会で歯科が対応しなければならない認知症やがんの疾患についての現場での話ができればと考えています。

略 歴

出身地 岩手県盛岡市

学 歴 昭和 52 年 3 月 岩手医科大学歯学部卒業

職 歴 昭和 52 年 4 月 岩手医科大学小児歯科

昭和 55 年 4 月 衣川村国保衣川歯科診療勤務

（昭和 63 年 4 月 1 日、衣川村国保衣川歯科診療所、平成元年 2 月 20 日、奥州市国保衣川歯科診療所組織替え）現在に至る

現在の役職（平成 26 年度末）

岩手医科大学歯学部非常勤講師	平成 15 年 4 月～
岩手県歯科医師会口腔保健センター運営委員	平成 18 年 4 月～
岩手医科大学歯科医師臨床研修委員会委員	平成 18 年 6 月～
岩手医科大学歯学会評議委員	平成 19 年 4 月～
日本リハビリテーション病院・施設協会口腔リハ推進委員	平成 19 年 7 月～
岩手県歯科医師会理事	平成 21 年 4 月～
日本歯科医師会在宅歯科医療推進チーム	平成 21 年 5 月～

IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成
第1回 公開シンポジウム



座長：美島 健二

昭和大学歯学部 口腔病態診断科学講座 口腔病理学部門

平成24年に採択された本プロジェクトは3年目を迎え、今回第1回目の公開シンポジウムが開催されることになりました。

3連携大学で進められている本プロジェクトの共通する目的は、超高齢社会における歯科医療を担う歯科医師を養成するために、積極的にIT教材を活用していくことにあります。

本シンポジウムでは、まず、取組の概要を昭和大学の片岡竜太先生にご説明頂きます。続いて、各大学の具体的な試みについて、北海道医療大学の越野 寿先生、岩手医科大学の城 茂治先生、そして昭和大学の弘中祥司先生にお話し頂きます。また、これらの教材が、より臨床に則したものとなるためには、ステークホルダーである歯科医師会の先生方のご要望をきちんと取り入れていく必要があると思われまます。そこで、東京都大田区大森歯科医師会の下山 忠明会長に御講演頂き、昭和大学との取り組みを通して臨床の現場から本プロジェクトに対する期待と要望についてご説明頂きます。

本シンポジウムの最後には、総合ディスカッションが行われますので、多くの方々に御参加頂き、本シンポジウムが実り多いものとなることを切に望みます。

略 歴

学 歴	平成3年3月	徳島大学歯学部卒業
	平成7年	奈良県立医科大学大学院医学研究科博士課程修了
職 歴	平成7年4月	奈良県立医科大学医学部病理学講座助手
	平成10年1月	米国立衛生研究所 (NIH) 国立歯学・頭蓋顔面研究所 (NIDCR) 客員研究員
	平成12年1月	奈良県立医科大学医学部助手
	平成13年8月	徳島大学歯学部口腔病理学講座助手
	平成14年7月	鶴見大学歯学部口腔病理学講座助手
	平成15年4月	鶴見大学歯学部口腔病理学講座講師
	平成17年7月	鶴見大学歯学部口腔病理学講座助教授
	平成23年10月	昭和大学歯学部口腔病理学講座教授

学会活動 日本病理学会 (学術評議員)
日本口腔病理学会 (理事)
日本再生医療学会 (代議員)
歯科基礎医学会 (評議員)
日本抗加齢医学会 (評議員)

1. 取組の概要と成果について



片岡 竜太

昭和大学歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座 歯学教育学部門

超高齢社会の到来に備えて全身と関連づけて口腔を診ることができ、基礎疾患を有する患者の歯科治療を安全に行える歯科医師を養成する事を目的とした、「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」が文科省大学間連携共同教育推進事業に採択され、3年が経過した。Step1(3年生)、Step2(4年生)において本取組で開発したIT教材を活用して3連携大学で必修授業を実施している。またStep3(5年生)で共通のポートフォリオを活用して臨床実習を行っている。授業前後の平均正答率を比較すると、プレテストでは42%であったが、ポストテストでは91%に上昇していた。この事から授業中の理解はかなり進んでいると考えられた。採点が可能な問題を同一学生に対して平成25年度Step1と平成26年度Step2で使用したところ、Step1における平均正答率60%であったのがStep2では75%と上昇していた。電子ポートフォリオでは「今後の日本の医療・歯科医療体制」を考え、「医科歯科連携と多職種連携の意義」「高齢者に多くみられる疾患と口腔に与える影響」、「口腔乾燥症」について理解ができた。という記述が多く見られた。平成26年度のStep2教材として、VPを活用した授業を実施した。歯科的主訴を有し高血圧などの基礎疾患を有した3腫のVPを用いた。血圧の確認、常用薬の確認、重篤な既往歴、他科への通院歴、基礎疾患の発症時期、基礎疾患に対する服薬の確認の6項目について、VPに対する平均質問率を計測した。平均質問率はオリエンテーションでは17%であったが、授業においては60%に上昇していた。電子ポートフォリオに「医療面接の流れが理解できた」「医療面接で情報を収集する方法がわかった」「医療面接のビデオを見て、問診票を書く練習ができて良かった」などの記載があり、臨床現場を意識した学修ができたと考えられる。以上の結果を踏まえてITを活用した教育プログラムの改善を図っているので報告する。

学歴	1985(昭和60)年	昭和大学 歯学部 卒業
略歴	1989(昭和64)年	昭和大学大学院 歯学研究科 顎顔面外科学専攻 卒業

職歴	1989(昭和64)年	昭和大学歯学部第1口腔外科学教室 助手
	1994(平成6)年	米国ノースカロライナ大学顎顔面センター客員研究員
	2000(平成12)年	昭和大学歯学部口腔外科学教室 講師
	2008(平成20)年	昭和大学歯学部歯科医学教育推進室 室長 准教授
	2011(平成23)年	昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座 歯学教育学部門 教授

学会活動	日本歯科医学教育学会 (常任理事)
	日本医学教育学会 (推薦代議員)
	日本歯科医学会 (学術研究委員)
	日本口腔科学会 (評議員)
	大学情報システム研究委員会 (委員)
	私立大学情報教育協会 (歯学部委員)

2. 各大学における取組と成果について



北海道医療大学の取組と成果

越野 寿

北海道医療大学 歯学部口腔機能修復・再建学系 咬合再建補綴学分野

超高齢社会の到来に備えて全身と関連づけて口腔を診ることができ、基礎疾患を有する患者の歯科治療を安全に行える歯科医師を養成する事を目的とした、「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」が文科省大学間連携共同教育推進事業に採択され、本学歯学部では、平成25年より本事業で製作した教材の導入を開始し、平成26年には3年生および5年生において本事業で開発したIT教材を活用して必修授業を実施している。3年生に対してはStep1として、「全身がわかる歯科医師がなぜ必要か」、「超高齢社会とチーム医療」、「口腔乾燥症と疾患」および「超高齢社会と歯科医療」について講義を行い、主として教育管理ソフトである「moodle」を使用した教材を用いた。授業前後に行ったプレテスト、ポストテストのうち客観的な採点が可能な問題を比較すると、その正答率は47.3%から64.3%に上昇した。5年生に対してはStep2として、「moodle」に加え、コンピューター上で医療面接、検査および診断のシミュレーションを行うバーチャルペイシエントを導入し、より臨床に近い実践的な授業を実施した。授業時間内に正しい診断まで辿りついた学生は25.0%であった。授業後に行なったアンケートでは、両学年ともに毎回約70%以上の学生が興味を持って取り組むことができ理解しやすかったと回答した。しかしながら「事前課題」や「復習課題」に対する取り組みについてはやや消極的な回答が見られた。また自由記載からは今後の教材や授業の改善につながるような回答を得ることができた。今回の授業結果を踏まえ、今後さらに改善を加えるとともに、Step3として5年生で共通のポートフォリオを活用した臨床実習を行っていく予定である。

略 歴

学 歴	1979年3月	北海道小樽潮陵高等学校卒業
	1985年3月	東日本学園大学歯学部卒業
	1993年9月	博士（歯学）取得（北海道医療大学）

職 歴	1985年4月	東日本学園大学歯学部臨床研究生
	1985年10月	東日本学園大学歯学部助手
	1993年11月	東日本学園大学歯学部講師
	1996年－1997年	米国UCLA歯学部客員研究員
	2003年4月	北海道医療大学歯学部助教授
	2007年4月	北海道医療大学歯学部准教授
	2010年10月	北海道医療大学歯学部教授
	2013年4月	北海道医療大学歯学部教務部長

学会活動	日本補綴歯科学会	代議員
	日本老年歯科医学会	代議員
	日本咀嚼学会	理事
	日本歯科医教育学会	評議員
	日本磁気歯科学会	学術担当理事
	日本顎顔面補綴学会	代議員
	日本口腔ケア学会	評議員

2. 各大学における取組と成果について



岩手医科大学の取組と成果

城 茂治

岩手医科大学 歯学部 口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野

超高齢社会の到来に備えて全身と関連づけて口腔を診ることができ、基礎疾患を有する患者の歯科治療を安全に行える歯科医師を養成する事を目的とした、「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」が文科省大学間連携共同教育推進事業に採択され、岩手医科大学歯学部でも連携校として平成25年から参加し、3年が経過した。これまでStep1(3年生)、Step2(4年生)において本取組で開発したIT教材を活用して必修授業を実施してきた。岩手医科大学では、「社会と歯科医療・チーム医療」という科目を新たに立ち上げ、Step1(3年生)でオリエンテーション、トライアルを含めて90分授業8コマ、Step2(4年)で同じく実習も含めて10コマで実施した。平成27年度では、Step3(5年生)を新たに臨床実習中に小グループでの実施を追加する予定である。実施後のアンケート結果では、Step1に関して、25年度は講義間で差はあったものの授業への評価は概ね良好な結果であった。しかし、26年度では「E-learningの設問は解答しやすかった」と「E-learningの操作は容易であった」の評価が比較的 low、学生の本授業への慣れとともに、ITC環境や学習コンテンツの完成度への期待が大きくなったものと思われた。平成26年度のStep2では、さらにその傾向が見られたことから継続的に自学自習に取り組むようITC環境と学習コンテンツのさらなる充実を図る必要がある。本学ではポートフォリオを活用しなかったが、これまでのE-learning、VPによる学習をStep3の臨床実習により効果的に活用するためにポートフォリオによる評価は不可欠と考える。また、第3学年からの本取組による経年的効果を評価し、自己活用するためにも低学年からの電子ポートフォリオの活用を平成27年度からは是非取り入れていきたい。

略 歴

学 歴	昭和44年 昭和52年	私立麻布高等学校卒業 岩手医科大学歯学部卒業、
職 歴	昭和52年 昭和57年 昭和61年 平成1年 平成7年－平成18年 平成21年4月－平成24年3月 平成21年4月 平成21年10月 平成24年4月	大阪大学歯学部医員採用（口腔外科学第二講座） 大阪大学歯学部助手任官（歯科麻酔学講座） 鹿児島大学歯学部講師昇任（歯科麻酔室） 岩手医科大学歯学部教授就任（歯科麻酔学講座） 同附属病院障害者歯科診療センター長 岩手医科大学附属病院副病院長（歯科医療センター長） 岩手医科大学評議員 現在に至る 岩手医科大学歯学部教授就任（口腔外科学講座歯科麻酔学分野：講座再編による） 岩手医科大学歯学部教授就任（口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野：講座再編による）、現在に至る
学会活動	日本歯科麻酔学会：常任理事、認定医、指導医 日本有病者学会：評議員 日本口腔科学会：評議員 他 日本歯科医学教育学会：理事	
著 書；	歯科麻酔学第7版（医歯薬出版、2011年、共著者） 歯科麻酔学入門第3版（学健書院、2000年、共編者） 第4版 臨床歯科麻酔学（永末書店、2011年、共編者）	

2. 各大学における取組と成果について



昭和大学の取組と成果

弘中 祥司

昭和大学 歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座 口腔衛生学部門

超高齢社会の到来に備えて全身と関連づけて口腔を診ることができ、基礎疾患を有する患者の歯科治療を安全に行える歯科医師を養成する事を目的とした、「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」が文科省大学間連携共同教育推進事業に採択され、昭和大学歯学部は主幹校として平成25年から実施し、これまで3年が経過した。Step1(3年生)、Step2(4年生)において本取組で開発したIT教材を活用して必修授業をこれまで実施してきた。昭和大学では、「チーム医療と口腔医学Ⅰ・Ⅱ」という科目の中で、Step1(3年生)でオリエンテーション、トライアルを含めて90分授業10コマ、Step2(4年)で同じく実習も含めて10コマで実施した。これまでの実施後アンケート結果では、Step1に関して、25年度は講義間で差はあったものの授業への評価は概ね良好な結果で、比較できる学年を調査したところ学習効果の上昇が見られた。平成26年度のStep2では、一部事前学習を課す反転授業も試みてみたが、VPの使用もあり、高い学習効果が現れた。平成27年度では、Step3(5年生)を新たに病棟での臨床実習中に実施を追加する予定である。本学ではポートフォリオを積極的に活用しているが、これまでのE-learning、VPによる学習をStep3の臨床実習により効果的に活用するために連結したポートフォリオによる評価は不可欠と考える。第3学年からの本取組による経年的効果を評価し、自己活用するためにも低学年からの新しい電子ポートフォリオの活用を平成27年度から導入し、Step3ではさらにSignificant Event Analysis(SEA)(有意事象分析)について本年度から導入している。本取組についても報告したい。

略歴

学歴	1994年	北海道大学歯学部歯学科卒業
職歴	2000年	北海道大学歯学部附属病院 助手(咬合系歯科)
	2001年	昭和大学歯学部口腔衛生学教室 助手
	2013年	昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座 口腔衛生学部門 教授 昭和大学口腔ケアセンター長(併任) 昭和大学スペシャルニーズ歯科センター長(併任) 現在に至る

学会活動 日本障害者歯科学会：理事
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会：理事
日本小児歯科学会：理事
iADH(国際障害者歯科学会)：理事 President-Elect
日本老年歯科医学会：代議員
日本口腔衛生学会：代議員
日本歯科医学教育学会：代議員

3. ステークホルダーとしての取組と本取組に期待すること



下山 忠明

東京都大田区大森歯科医師会 会長

高齢社会の到来に備えて全身と関連づけて口腔を診ることができ、基礎疾患を有する患者の歯科治療を安全に行える歯科医師を養成する事を目的とした、「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」が文科省大学間連携共同教育推進事業に採択され、3年が経過した。歯科医師会としては、地域の現場と照らし合わせ、大学での教育が、実際の医療現場と直結することが出来るような、パイプになればと考えている。

現在、Step1(3年生)、Step2(4年生)において本取組で開発したIT教材を活用して3連携大学で必修授業を実施している。またStep3(5年生)で共通のポートフォリオを活用して臨床実習を行っている。

臨床実習の受け入れとして、地域歯科医師会を通して、協力歯科診療所にて、受け入れを行っている。これは実際の臨床現場、いわゆる大学病院ではなく通常の開業医の目線での考えを学ぶことが出来る、大学の授業で習う事柄、大学での実習で学んだことを、いかに実践に応用していくかを学ぶ事が重要であると思う。

超高齢社会の到来に対応できる、様々な知識、技術こそが、今後は歯科医師として最重要とされ、歯科医師会としても、大学教育の中に、現状をお伝えし、意見交換を行い、時代にあった歯科医師を養成することが必要であると考えている。

略 歴

- 平成2年 3月 昭和大学歯学部卒業
- 平成2年 12月 平和島駅前歯科医院開設
- 平成12年 4月 社団法人大森歯科医師会理事
- 平成21年 4月 社団法人東京都歯科医師会理事
- 平成25年 4月 公益社団法人大森歯科医師会会長

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業
ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成

第1回 公開シンポジウム

平成27年 6月3日

ITを活用した教育センター
